

# アリスイ

*Jynx torquilla*



樹幹に止まらないキツツキ。首の動かし方がヘビに似ており、西洋では不吉の象徴とされる



キツツキの頭蓋骨には舌骨の収まる溝がある。これはオオアカゲラ

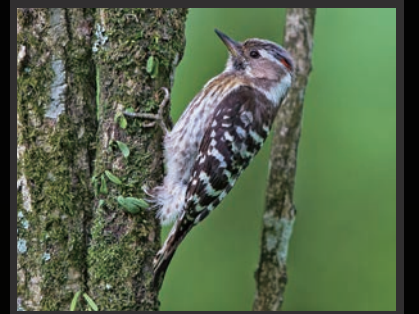
舌骨



人間の舌には骨はないが、鳥の舌には舌骨という骨が入っている。キツツキの仲間は、木の中の深くに住む幼虫などを捕らえるため、とても長い舌を持っている。この長い舌ももちろん骨格に支えられており、口内に収まりきらない舌骨は、頭蓋骨の後方を下から上にぐるりと取り巻いている。この構造はキツツキだけに許されたものではなく、タイヨウチョウ科やハチドリ科でも見られる。こちらは昆虫ではなく、細長い花の奥から蜜を吸うために長い舌を使用する。ハチドリ(p.83)の骨格写真でもチラリと見えているのでご覧いただきたい。

# コゲラ

*Dendrocopos kizuki*



都市公園でも見られる小さなキツツキ。趾は前後2本の対趾足



橈骨

尺骨



コゲラ(上)とアオゲラ(下)の翼羽乳頭。触ると見た目以上に存在感があるので、触らせてあげたい

鳥の肘から手首の間には、橈骨と尺骨という2本の骨が入っており、太いほうが尺骨だ。尺骨の上には翼羽乳頭という小さな突起が等間隔で並んでいる。次列風切羽が生えていた基部に当たる部分だ。風切羽の生えている鳥にはあるものなのだが、キツツキ科ではこの突起がほかの種に比べて大きく発達している。確かにキツツキは力強く羽ばたくが、だからといって特別に大きな土台が必要な理由がよくわからない。そのおかげで目をつぶって触るだけでキツツキ科とわかるのは数少ない利点である。まあ、そんな機会は一生に一度も巡っては来ないのだが。

1cm